

2023年度盛心塾和歌山総会・懇親会

2023年1月27日、アバローム紀の国にて、2023年度盛心塾和歌山の総会・新年会が開催されました。角谷代表世話人の開会の挨拶の後、辻本塾生司会のもと、小池塾生から、2022年度会計報告、2023年度会計予算案及び審議、石黒塾生から、2022年度活動報告、2023年度活動予定案及び審議、2023年度世話人及び各委員長及び審議、小池塾生から、規約の改定に関する事項案が提案され、いずれも満場一致で可決されました。また、各委員会の活動方針の発表が、各委員長からありました。また、石黒塾生から、2023年度盛心塾和歌山の行動スローガンの発表があり、盛心塾和歌山の新年度の活動がスタートしました。



参加者全員の記念写真

総会后、辻本塾生司会のもと、児玉塾生乾杯の挨拶と発声により、懇親会が開催され、食事と懇談の中、重田塾生から、稲盛和夫塾長追悼文集の披露と、小池塾生から、稲盛塾長著書籍 図書館寄贈報告がありました。その後、参加者全員の決意表明が発表され、石黒塾生の締め挨拶により、無事閉会となりました。

角谷太基代表世話人開会の挨拶

みなさん、遅まきながら、新年明けましておめでとうございます。今年の私たちの大きな話題は、私たちの師、稲盛和夫塾長が昨年8月、ご逝去されたことです。残念なことではありますが、私たち塾生ひとり一人の心の中には永遠に存在し続けるのだと思っています。稲盛塾長は、「美しい魂をつくること」を次のようにお話しされています。どんなに財産をため込んでも、名声を獲得しても、多くの人を従える権威を誇っても、人生を終え、死を迎えるときには、肉体をはじめ形あるものは何一つとして持っていくことはできません。しかし、すべてが無に帰してしまうわけでもありません。人間が心の奥底にもっている「魂」だけでは、人生の結果として残り、来世まで持ち越すことができません。ですから、人生の目的とは美しい魂をつくることにあり、人生とはそのように魂を磨くために与えられた、一定の時間と場所に他ならないのです。また、「人生の勲章」というお話では私たちは魂だけをもって来世に行くのです。財産も名誉も持っていくことはできません。そして、一人で旅立たなければならないということです。ですから、勲章とは、より美しくなった魂、心の輝きだけなのです。ということです。塾長は文字通り、そのような生き方を実践し、私たちに示し、現世を去りました。このような生き方を塾長は別の表現で「人生の目的は心高め続けることである」とシンプルに言われています。2023年の盛心塾和歌山の行動スローガンは、塾長の学びの原点に立ち返り、「心をベースとして経営する」としました。これは、京セラフィロソフィー78項目の中で、一番最初に出てくる項目です。ここで、塾長は「心をベースとして経営する」京セラは資金も信用も実績もない小さな町工場から出発しました。頼れるものはなげなしの技術と二十八人の信じ合える仲間だけでした。会社の発展のために一人一人が精一杯努力する、経営者も命をかけてみんなの信頼にこたえる、働く仲間がそのような心信じ、私利私欲のためではない、社員みんなが本当にこの会社で働いて良かったと思う、すばらしい会社でありたいと考えてやってきたのが京セラの経営です。人の心はうつろいやすく変わりやすいものと言われますが、また同時にこれほど強固なものもないのです。その強い心のつながりをベースにしてきたからこそ、今日までの京セラの発展があるのです。と言われていました。私たちは、今年もさらに、フィロソフィーを社内で浸透し、強い心のつながりをベースにした経営を全従業員と共に実践し、全従業員の物心両面の幸福を追求していきましょう。